

「風力発電環境影響準備書」説明会に参加して

秋葉

1. 発電所の概要

三大明神風力発電

最大 35,700 kW（定格出力 2,100 kW を 17 基設置）
固定価格買取制度により発電した全量を東北電力に売電
20 年間 ローター径約 83m、ハブ高さ約 75m、最大高さ 117m

田人風力発電

最大 21,600 kW（定格出力 3,000 kW 級を 6 基設置） 事業期間 20 年間
固定価格制度により、東北電力に発電した電気を全量売電
ローター径約 108m ハブの高さ約 79.5m 最大 134m

2. 「風力発電環境影響準備書」説明会への意見

2010 年 12 月より運転開始した「ユーラス滝根・小白井ウインドファームの発電・売電実績が公表されておらず、自然エネルギーとしての風力発電がどの位寄与しているのか・いないのか判断の材料がありません。

事業者の説明は都合の良いことばかりで「すべて問題なし、問題あれば検討します。」のあいまいな表現に「善処してくれる」と誤解を与えて納得させており、不安の解消はされていません。

しかも、有効な発電・売電ができるのか？ 温室ガス削減になるのか？ 地元へメリットがあるのか？ 真実は明らかにされていません。

年平均でない春夏秋冬と 8 月の 13 時～16 時の風況、発電・売電状況・の公表を要望します。

超低周波・騒音等の参考値は安全値ではなく、3 km より遠くの住民以外にも被害をもたらしております。発生した場合の運転停止を含め、速やかに対応を約束すること。

事故処理や 20 年を過ぎ事業終了時の撤去・現状復帰、山林復元、責任の明文化を求めます。

地元へのメリットは全くなく、我慢と犠牲が強いられ、事業終了の 20 年後、残るのは廃物となった施設と自然破壊のみとなる可能性が極めて大きい。

「山の資源を生かし観光交流人口を増やそう」と努力しているいわき市の施策とも矛盾するものです。

十分な説明、住民理解を得たとは言えない現段階で、この風力発電は建設すべきではありません。